

ギャラップ・インターナショナル・アソシエーション国際世論調査

「エンド・オブ・イヤーサーベイ2019」

46か国グローバル調査

調査結果

株式会社 日本リサーチセンター

◆「エンド・オブ・イヤーサーベイ」レポート

株式会社日本リサーチセンター（本社：東京都墨田区、代表取締役社長 鈴木稲博）が加盟しているギャラップ・インターナショナル・アソシエーションでは、2019年10月から12月にかけて世界46カ国の人々を対象に国際世論調査「エンド・オブ・イヤーサーベイ」を実施しました。

この度、その調査結果がリリースされましたので、日本の属性別調査結果を加えて、日本版レポートを発表いたします。ご高覧いただければ幸いです。

注1：比率（％）は、各国の人口に比例した重みを付けて集計を行っています（ウエイト集計）

注2：比率（％）は、四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならないところもあります

「エンド・オブ・イヤーサーベイ」は1977年にジョージ・ギャラップ氏により開始され、以降毎年、世界各国で実施しています（今回が43回目となります）。また、本調査にあたってはWIN(Worldwide Independent Network Of Market Research)と提携して実施しています。

◆ギャラップ・インターナショナル・アソシエーション

1947年にジョージ・ギャラップ氏とヨーロッパの仲間によって設立され、現在はオーストリアに本部があります。現在世界のおよそ50カ国でメンバーを持ち、世界の多くの国で世論調査や市場調査を実施しています。

※なお、米国調査会社Gallup, Inc.とは関係ございません。

◆株式会社日本リサーチセンター（NRC）

1960年に設立された民間の調査研究機関です。

民間企業、官公庁からの受託調査・研究及び自主企画調査を国内外問わず実施しています。

ギャラップ・インターナショナル・アソシエーションには日本で唯一の代表として1968年に加盟しました。

1) 2020年が2019年より「良くなる」は、世界全体で37%、日本では29%

- 2020年が2019年より良くなるかどうか質問した結果は、日本では、「変わらない」と答えた割合が39%で最も多く、「良くなる」は29%。
- 世界全体では、「良くなる」と答えた割合が37%で最も多い。世界と比較すると、日本の回答は、「良くなる」と「悪くなる」が少なく、「変わらない」と「わからない」が多くなっている。
- 2020年が2019年より「良くなる」と「悪くなる」と答えた割合の差の大きい順に並べてみると、日本は46か国中20位。上位4か国は、ペルー、アルバニア、ナイジェリア、カザフスタンの順。一方、下位3か国は、レバノン、香港、ヨルダンとなっている。
- 日本では、「良くなる」という回答が2019年調査では2018年調査よりも5ポイント増。2016年以降「良くなる」の上昇が続く。

2) 自分の人生が『幸せ』（「とても幸せ」と「幸せ」の計）と感じる人は、日本も世界全体も6割程度。

- 自分の人生が幸せかどうかを質問した結果は、日本も世界全体も『幸せ』（「とても幸せ」と「幸せ」の計）が約6割で大差がない。
- 日本では、良い年の見通しについてはポジティブな回答が少なかったが、幸せ感では約6割がポジティブな回答を示した。
- 自分の人生が『幸せ』（「とても幸せ」と「幸せ」の計）と『不幸せ』（「とても不幸せ」と「不幸せ」の計）と答えた割合の差の大きい順に並べてみると、日本は46か国中16位。上位3位か国は、コロンビア、インドネシア、エクアドルの順。一方、下位3か国は、ヨルダン、レバノン、シリアとなっている。

2020年が2019年より「良くなる」は、世界全体で37%、日本では29%

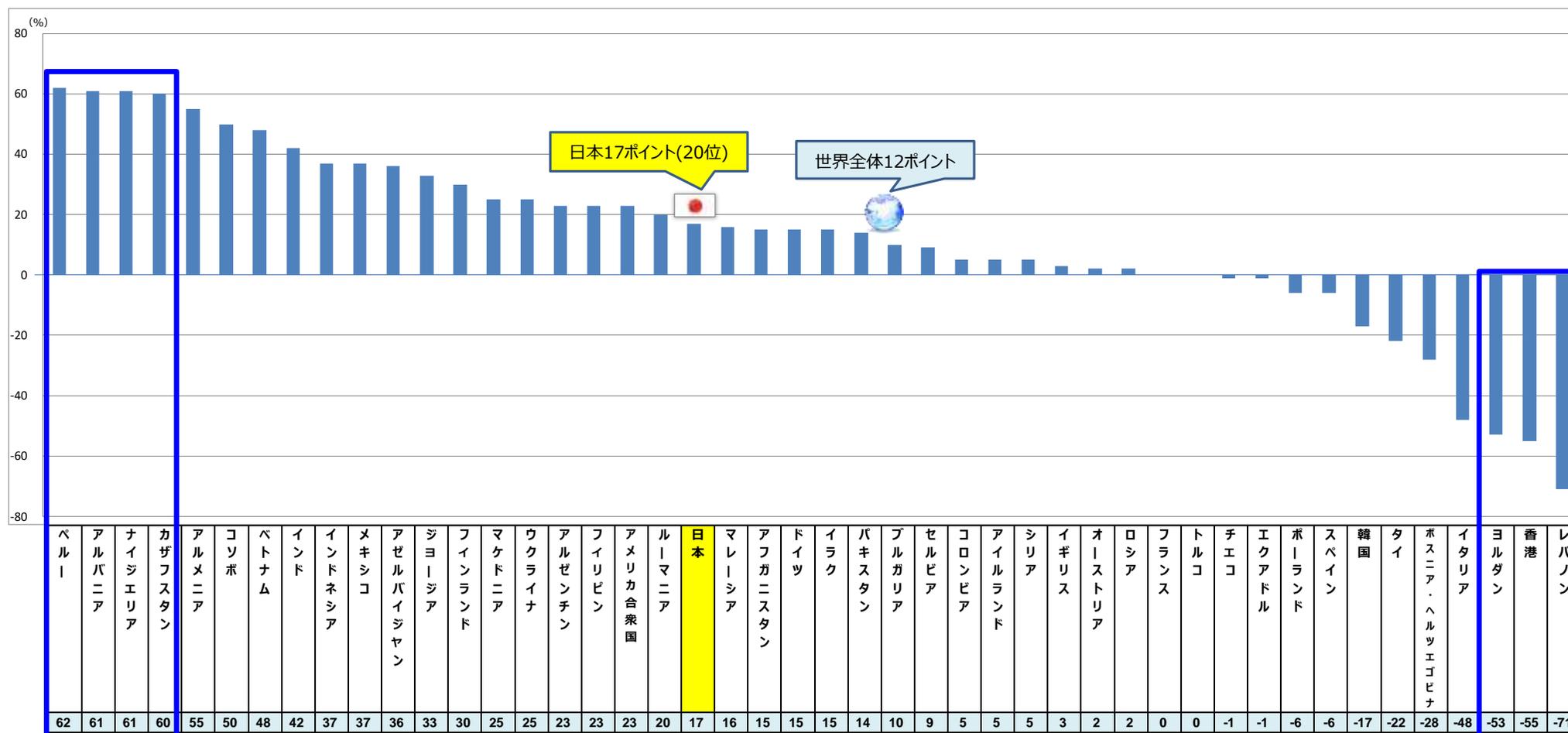
- 2020年が2019年より良くなるかどうか質問した結果は、日本では、「変わらない」と答えた割合が39%で最も多く、「良くなる」は29%。
- 世界全体では、「良くなる」と答えた割合が37%で最も多い。
- 世界と比較すると、日本の回答は、「良くなる」と「悪くなる」が少なく、「変わらない」と「わからない」が多くなっている。
- 「良くなる」と「悪くなる」の差は、世界では「良くなる」が「悪くなる」を12ポイント上回るが、日本は17ポイント。

Q あなたご自身は、2020年は2019年より「良い年になる」、「悪い年になる」、「変わらない」のいずれだと思いますか。(単数回答)

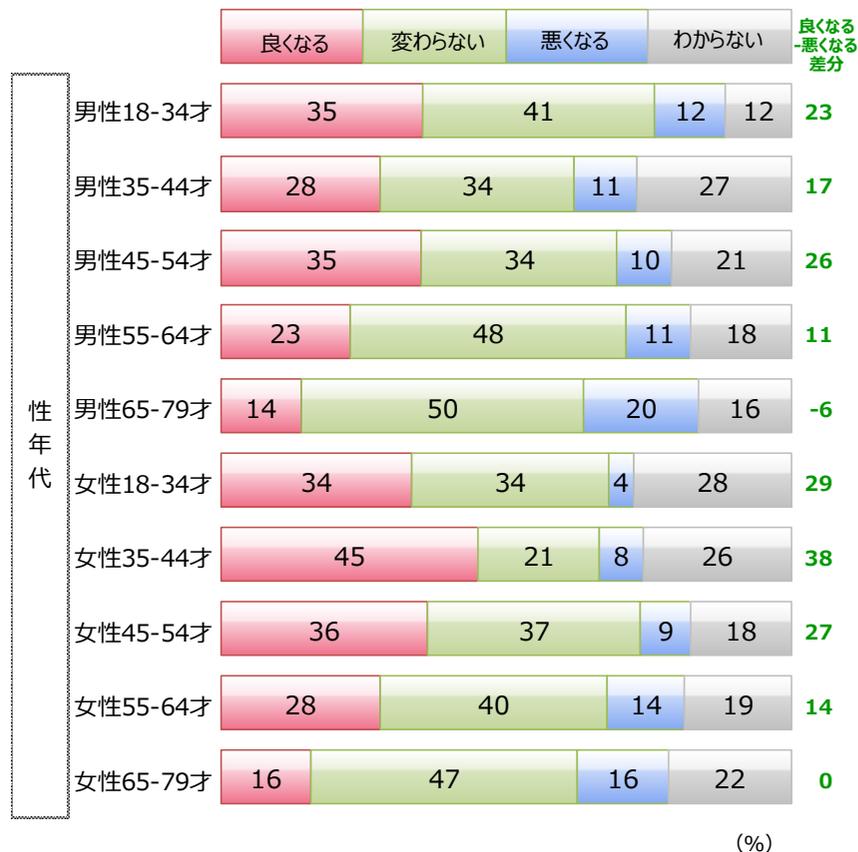
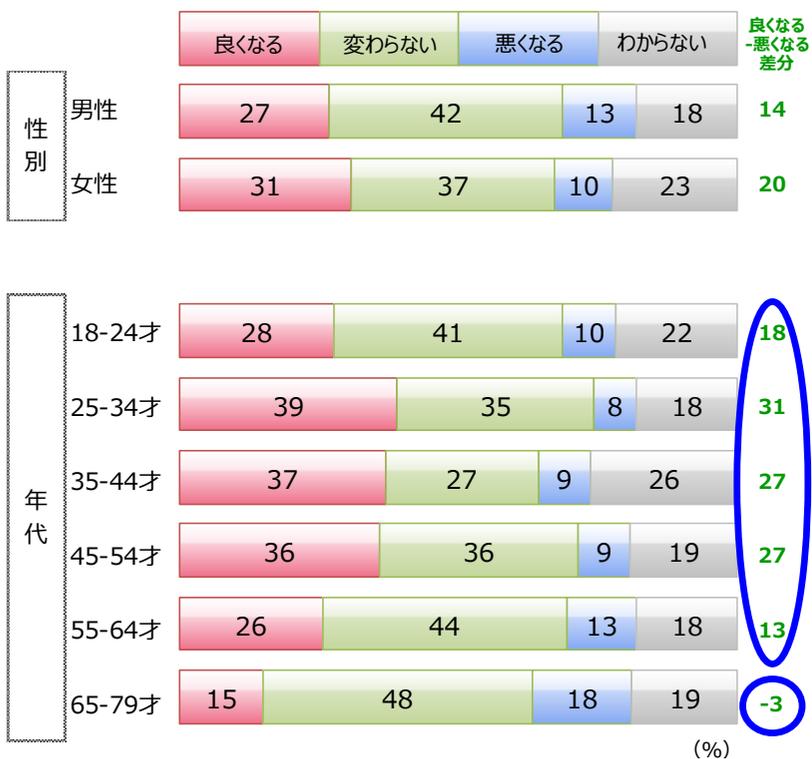
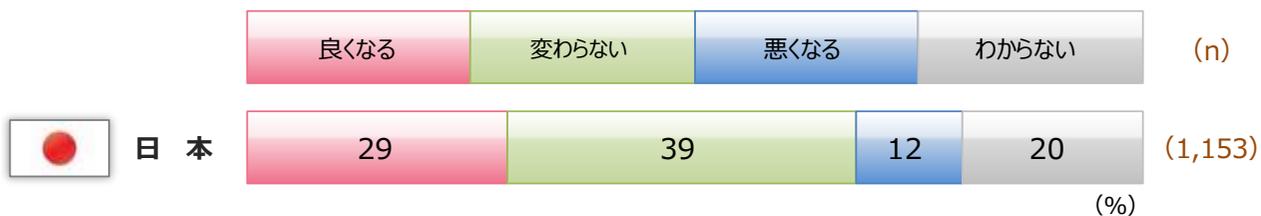


- 2020年が2019年より「良くなる」と「悪くなる」と答えた割合の差の大きい順に並べてみると、上位4か国は、ペルー、アルバニア、ナイジェリア、カザフスタンの順。一方、下位3か国は、レバノン、香港、ヨルダンとなっている。
- 日本は46か国中20位。

■ 各国の「良くなる」-「悪くなる」の回答割合の差（差の大きい順に並べ替え）



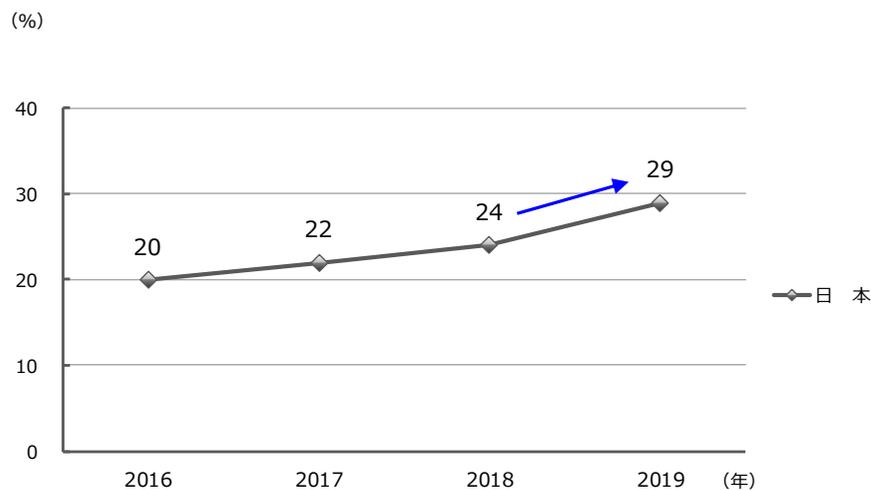
●日本の結果を年代別にみると、64歳以下は、「良くなる」の割合が「悪くなる」の割合を上回り、65歳以上では、「悪くなる」の割合が「良くなる」の割合を上回る。



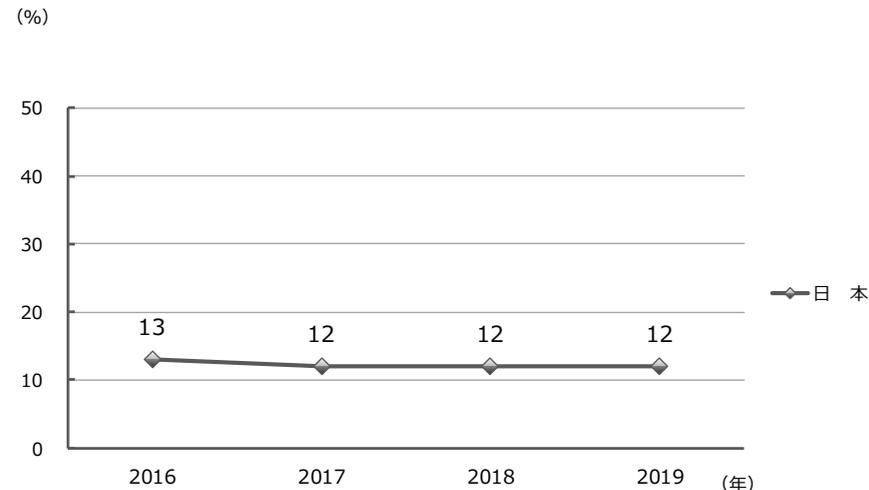
● 日本の結果を時系列で比べてみると、今回の調査（2019年）で、翌年が「良い年になる」と答えた割合は、前回（2018年）と比べて5ポイント増。2016年以降「良くなる」が増加を続けている。

Q あなたご自身は、2020年は2019年より「良い年になる」、「悪い年になる」、「変わらない」のいずれだと思いますか。(単数回答)

「良くなる」回答比率推移(日本)



「悪くなる」回答比率推移(日本)



日本も世界全体も『幸せ』（「とても幸せ」と「幸せ」の計）が同程度で6割弱。

- 人生が幸せかどうか質問したところ、『幸せ』（「とても幸せ」と「幸せ」の計）と答えた割合は、世界全体も日本も約6割と、大差がない。
- 日本では、来年の見通しについてはポジティブな回答が少なかったが、幸せ感では約6割がポジティブな回答を示した。

Q あなたの人生は、「とても幸せ」、「幸せ」、「幸せでも不幸せでもない」、「不幸せ」、「とても不幸せ」のいずれだと思いますか。(単数回答)

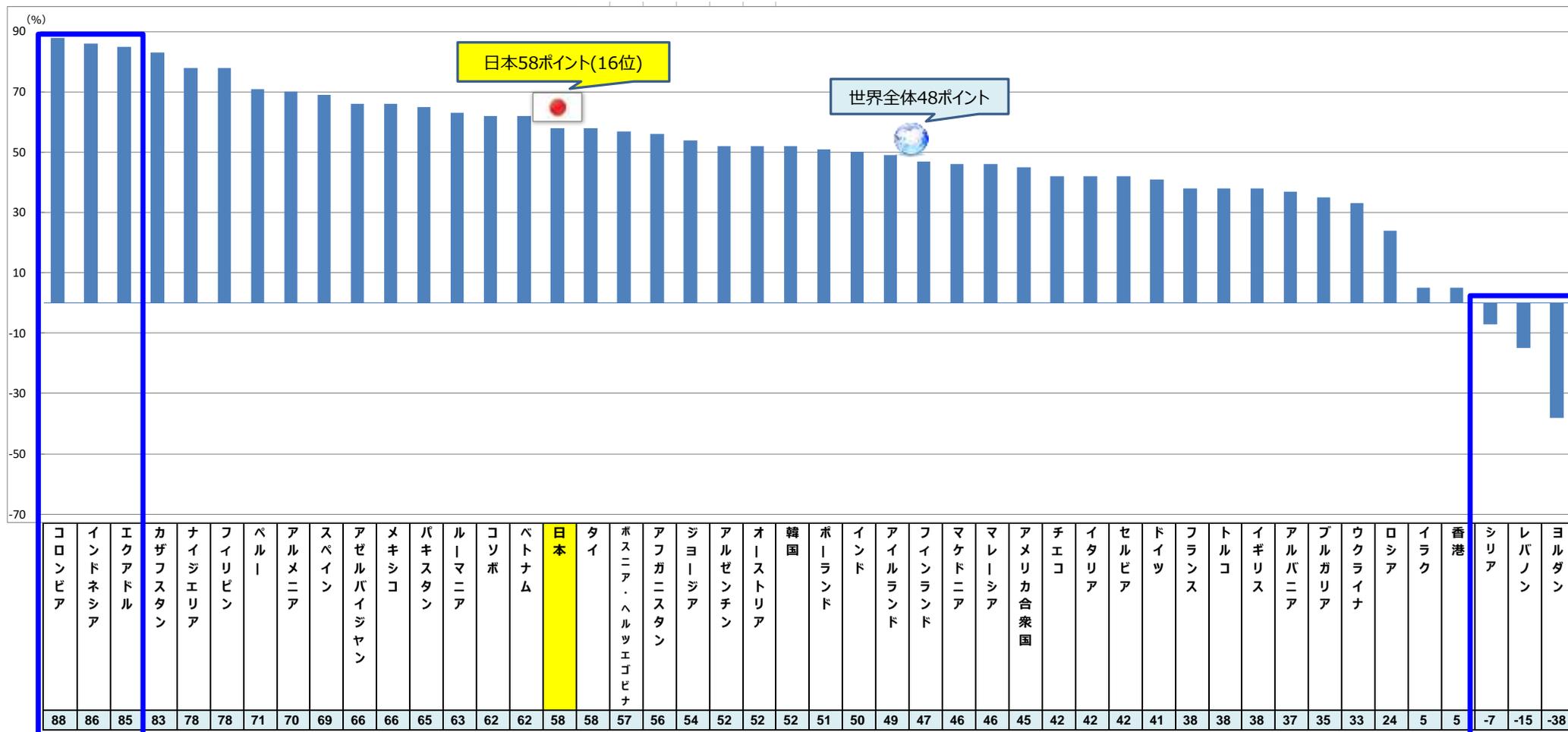


*『幸せ』：「とても幸せ」と「幸せ」の計

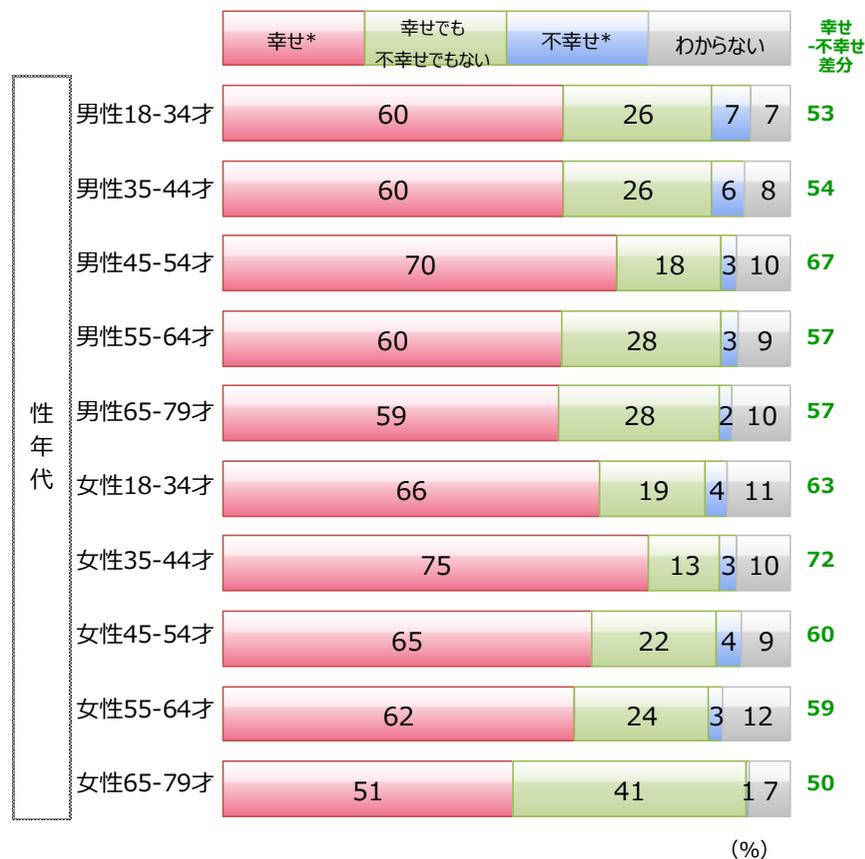
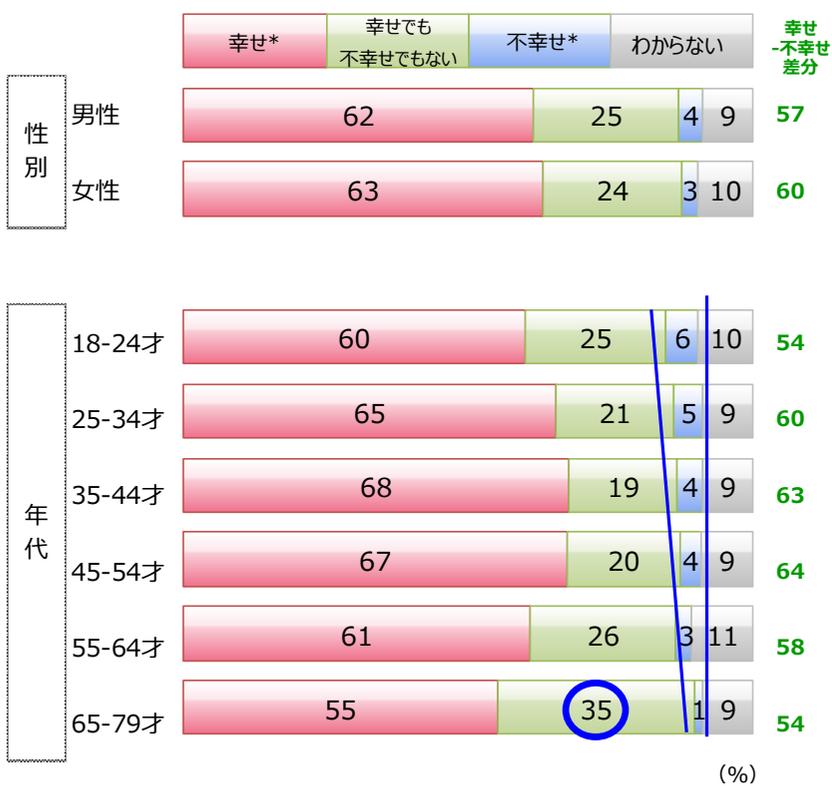
*『不幸せ』：「とても不幸せ」と「不幸せ」の計

- 『幸せ』（「とても幸せ」と「幸せ」の計）と『不幸せ』（「とても不幸せ」と「不幸せ」の計）と答えた割合の差の大きい順に並べてみると、上位3位か国は、コロンビア、インドネシア、エクアドルの順。一方、下位3か国は、ヨルダン、レバノン、シリアとなっている。
- 日本は、46か国中16位で、世界全体を10ポイント上回る。

■ 各国の『幸せ』-『不幸せ』の回答割合の差（差の大きい順に並べ替え）



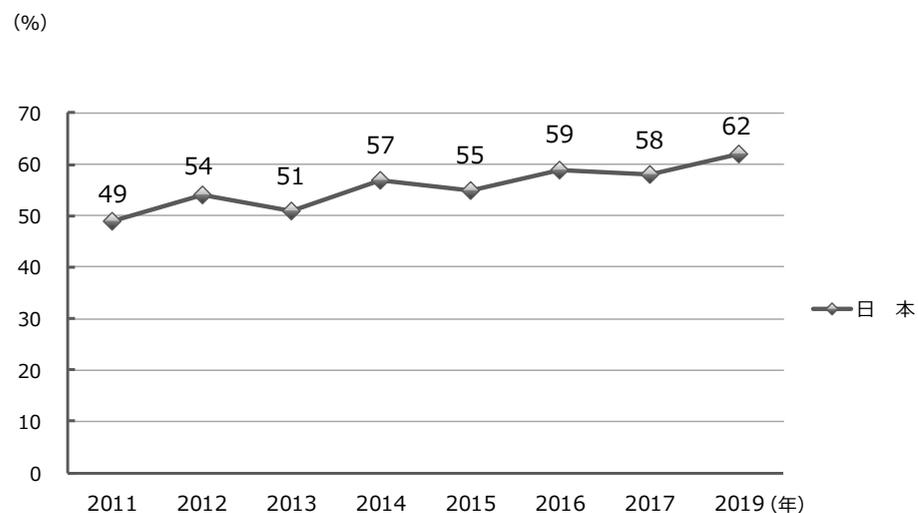
- 日本の結果を男女別にみると、大きな差はみられない。
- 年代別にみると、65歳以上で『幸せ』（「とても幸せ」と「幸せ」の計）の割合が少なく、「幸せでも不幸せでもない」が多い。『不幸せ』（「とても不幸せ」と「不幸せ」の計）の割合は、年齢が上がるにつれて少なくなっている。



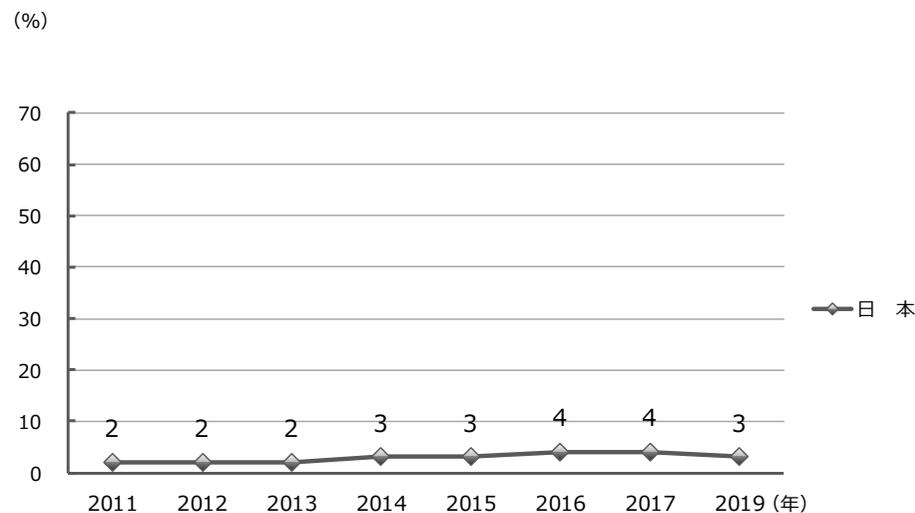
● 日本の結果を時系列で比べてみると、2011年以降、『幸せ』と答えた回答の緩やかな増加傾向が続く。

Q あなたの人生は、「とても幸せ」、「幸せ」、「幸せでも不幸せでもない」、「不幸せ」、「とても不幸せ」のいずれだと思いますか。(単数回答)

『幸せ』回答比率推移(日本)



『不幸せ』回答比率推移(日本)



*『幸せ』：「とても幸せ」と「幸せ」の計
 *『不幸せ』：「とても不幸せ」と「不幸せ」の計

● 46カ国の内訳と調査サンプルサイズは、以下の通り。

地域	国	サンプルサイズ
アジア	日本	1,153
	インド	1,003
	インドネシア	1,033
	タイ	600
	パキスタン	1,000
	フィリピン	1,000
	ベトナム	501
	マレーシア	810
	韓国	1,500
	香港	537
	北米	アメリカ合衆国
中南米	アルゼンチン	547
	エクアドル	600
	コロンビア	1,202
	ペルー	1,000
	メキシコ	500
中東	アフガニスタン	1,724
	イラク	1,000
	シリア	686
	トルコ	601
	ヨルダン	1,000
	レバノン	1,000
アフリカ	ナイジェリア	1,000

地域	国	サンプルサイズ
欧州	アイルランド	1,011
	アゼルバイジャン	500
	アルバニア	993
	アルメニア	1,517
	イギリス	1,000
	イタリア	1,217
	ウクライナ	2,043
	オーストリア	1,000
	カザフスタン	808
	コソボ	1,013
	ジョージア	1,086
	スペイン	1,089
	セルビア	1,010
	チェコ	1,000
	ドイツ	1,000
	フィンランド	1,286
	フランス	1,000
	ブルガリア	829
	ポーランド	1,016
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	1,000
	マケドニア	1,210
	ルーマニア	501
	ロシア	1,500

46か国合計	45,675
--------	--------

● 日本の属性別調査サンプルサイズは、以下の通り。

日本	属性	サンプルサイズ
性別	男性	567
	女性	586
年代別	18-24才	105
	25-34才	159
	35-44才	204
	45-54才	196
	55-64才	215
	65-79才	274
性年代別	男性18-34才	130
	男性35-44才	100
	男性45-54才	105
	男性55-64才	97
	男性65-79才	135
	女性18-34才	134
	女性35-44才	104
	女性45-54才	91
女性55-64才	118	
女性65-79才	139	

● 日本の調査仕様は、以下の通り。

調査方法：調査員による個別訪問留置調査
 調査対象：全国の18～79歳男女個人
 実施期間：2019年10月31日～11月12日

《 引用・転載時のクレジット表記のお願い 》

本リリースの引用・転載の際は、下記連絡先にメールにて掲載のご連絡をお願い致します。

連絡先：(株) 日本リサーチセンター広報室

エンド・オブ・イヤーサーベイ2019 担当

メール：information@nrc.co.jp

本リリースの引用・掲載の際は、必ずクレジットを明記してください。

調査結果のグラフ・表をご利用の場合は、データ部分に当社クレジットを掲載してください。